（別添1）

# 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価（生活交通確保維持改善計画に基づく事業）

令和8年1月9日

**協議会名：** 田原市地域公共交通会議

**評価対象事業名：** 地域公共交通確保維持事業／地域内フィーダー系統

| ①補助対象事業者等 | ②事業概要 | ③前回（又は類似事業）の事業評価結果の反映状況 | ④事業実施の適切性 | | ⑤目標・効果達成状況 | | ⑥事業の今後の改善点（特記事項を含む） |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 【補助対象となる事業者名等の名称を記載】 | 【系統名・航路名・設備名、運行（航）区間、整備内容等を記載（陸上交通に係る確保維持事業において、車両減価償却費等及び公有民営方式車両購入費に係る国庫補助金の交付を受けている場合、離島航路に係る確保維持事業において離島航路構造改革補助（調査検討の経費を除く。）を受けている場合は、その旨記載）】 | 【事業評価の評価対象期間において、前回の事業評価結果をどのように生活交通確保維持改善計画に反映させた上で事業を実施したかを記載】 | A・B・C評価 | 【計画に基づく事業が適切に実施されたかを記載。計画どおり実施されなかった場合には、理由等記載】 | A・B・C評価 | 【計画に位置付けられた定量的な目標・効果が達成されたかを、目標ごとに記載。目標・効果が達成できなかった場合には、理由等を分析の上記載】 | 【事業の今後の改善点及びより適切な目標を記載。改善策は、事業者の取り組みだけでなく、地域の取り組みについて広く記載。特に、評価結果を生活交通確保維持改善計画にどのように反映させるか（方向性又は具体的な内容）を必ず記載すること。】<br>※なお、当該年度で事業が完了した場合はその旨記載 |
| 豊鉄ミデイ㈱ | ぐるりんバス市街地線<br>（田原駅～田原駅） | ・路線カルテの作成にて地域と情報共有した。<br>・地域の商工団体と連携した利用促進に取り組んだ。<br>・東三河関係市町村と連携し、なつやすみ50円バスなどの企画を実施した。 | A | ・計画どおり適切に実施した。 | A | 【※評価基準は、目標値を超えていればA評価、目標値の50%以上がB評価、目標値の50%未満でC評価とする】<br>・1便当たり利用者数　5.3人で目標値を達成した。<br>（目標5.0人、昨年度5.2人）<br>・沿線の寮に居住する臨海企業従業員の利用により一定の利用者を確保している。 | ・東三河MaaS「いこまい」等を活用し、DX等の技術を活用した利用促進の継続<br><br>・引き続き関係機関と連携した利用促進策等を実施し、官民一体となった「守り育てる」公共交通利用促進事業を検討。<br><br>・路線カルテを用いて路線ごとの利用実態を検証し、地域と利用促進策を検討し実施<br><br>・バス停ごとに利用者の分析を行い、利用実態に合わせて、変更が必要な場合は随時ダイヤ・ルート等の変更を実施<br><br>・移動の減少傾向や性格等を分析<br><br>・目標：1便当りの利用者数<br>市街地線・童浦線・ｻﾝﾃﾊﾟﾙｸ線：5人<br>表浜線：3人 |
| | ぐるりんバス童浦線<br>（片西南～渥美病院） | ・路線カルテの作成にて地域と情報共有した。<br>・地域の商工団体と連携した利用促進に取り組んだ。<br>・東三河関係市町村と連携し、なつやすみ50円バスなどの企画を実施した。 | | | A | ・1便当たり利用者数　9.2人で目標値を達成した。<br>（目標5.0人、昨年度7.2人）<br>・臨海企業の外国籍従業員の増加に伴い利用者が増加した。 | |
| | ぐるりんバスサンテパルク線<br>（芦集会所～渥美病院） | ・路線カルテの作成や校区公共交通利用推進協議会で地域と情報共有した。<br>・地域の商工団体と連携した利用促進に取り組んだ。<br>・収穫祭にてサンテパルク線乗車証明書と引き換えに缶バッチを配布。<br>・東三河関係市町村と連携し、なつやすみ50円バスなどの企画を実施した。 | | | B | ・1便当たり利用者数　4.4人で目標値を達成できなかった。<br>（目標5.0人、昨年度4.1人）<br>・中学生の通学利用により、一定数の利用者数確保しているが、目標まで達していない。8月は小中学校夏季休暇の影響で利用者が減少。 | |
| 渥美交通㈱ | ぐるりんミニバス表浜線<br>（図書館～図書館） | ・路線カルテの作成にて運行事業者及び地域と情報共有した。<br>・地域の商工団体と連携した利用促進に取り組んだ。<br>・東三河関係市町村と連携し、なつやすみ50円バスなどの企画を実施した。 | | | A | ・1便当たり利用者数　3.8人で目標を達成した。<br>（目標3.0人、昨年度3.8人）<br>・高齢者の通院や買い物利用者を一定数確保していることにより、目標達成が継続された。 | |

差替

資料7

（別添1－2）

# 事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について

令和8年1月9日

| | |
|---|---|
| 協議会名： | 田原市地域公共交通会議 |

| | |
|---|---|
| 評価対象事業名： | 地域公共交通確保維持事業／地域内フィーダー系統 |

| | |
|---|---|
| 地域の交通の目指す姿<br>（事業実施の目的・必要性） | [将来像]だれもが安心して移動できるまち<br><br>[取組姿勢]協働で“つくり・守り・育てる”公共交通網<br><br>[全体目標]まちづくりの基盤となる公共交通の確立<br><br>【実現目標】<br>〇多様な移動ニーズに対応する公共交通の実現<br>⇒移動の安全性の向上、移動手段の選択肢拡大を目指す。<br>〇まちづくりを促進し、まちの魅力を高める公共交通の実現<br>⇒定住・交流人口の拡大、都市形成の推進・都市機能の維持向上、環境共生・福祉など地域課題の解消、観光・商業など地域活力の向上を目指す。<br>〇市民の幸福に貢献する公共交通の実現<br>⇒潤い豊かな暮らし方の実現を目指す。<br><br>【公共交通網】<br>〇「幹線乗合交通」を基軸とし、その範囲外を「コミュニティ乗合交通」「有償パーソナル交通」「政策交通」が順次補完（役割分担・連携）し、更にこれらを企業送迎・助け合い活動が補うことで市民等の移動を確保する。 |

（別添1）

# 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価（生活交通確保維持改善計画に基づく事業）

令和8年1月9日

**協議会名：** 田原市地域公共交通会議

**評価対象事業名：** 地域公共交通確保維持事業／地域間幹線系統

| ①補助対象事業者等 | ②事業概要 | ③前回（又は類似事業）の事業評価結果の反映状況 | ④事業実施の適切性 | | ⑤目標・効果達成状況 | | ⑥事業の今後の改善点（特記事項を含む） |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 【補助対象となる事業者名等の名称を記載】 | 【系統名・航路名・設備名、運行（航）区間、整備内容等を記載（陸上交通に係る確保維持事業において、車両減価償却費等及び公有民営方式車両購入費に係る国庫補助金の交付を受けている場合、離島航路に係る確保維持事業において離島航路構造改革補助（調査検討の経費を除く。）を受けている場合は、その旨記載）】 | 【事業評価の評価対象期間において、前回の事業評価結果をどのように生活交通確保維持改善計画に反映させた上で事業を実施したかを記載】 | A・B・C評価 | 【計画に基づく事業が適切に実施されたかを記載。計画どおり実施されなかった場合には、理由等記載】 | A・B・C評価 | 【計画に位置付けられた定量的な目標・効果が達成されたかを、目標ごとに記載。目標・効果が達成できなかった場合には、理由等を分析の上記載】 | 【事業の今後の改善点及びより適切な目標を記載。改善策は、事業者の取り組みだけでなく、地域の取り組みについて広く記載。特に、評価結果を生活交通確保維持改善計画にどのように反映させるか（方向性又は具体的な内容）を必ず記載すること。】<br>※なお、当該年度で事業が完了した場合はその旨記載 |
| 豊鉄バス(株) | 伊良湖本線<br>（渥美病院田原駅前保美） | ・沿線市と協力し、技能実習生を対象とした多言語チラシのPR。<br>・観光客向けに、便利でお得な企画切符（デジタルチケット）の造成<br>・田原市（旧渥美町）・市内高校生への通学定期券の購入助成を継続実施<br>・多言語チラシ配架（3か国追加　計5か国語） | A | 計画どおり実施した。 | B | 【計画目標指標：利用者数】<br>目標：60,691人、実績：51,407人、達成率84.7%<br><br>【理由等】定期利用が減少した<br><br>【輸送量】<br>R7計画：25.2人、R7実績：22.7人（平均乗車密度：3.3、運行回数：6.9）<br><br>【収支率】<br>R6実績:55.2%、R7実績：44.6% | ・観光客向けに、便利でお得な企画切符の造成<br>・沿線市と協力し、技能実習生を対象とした多言語チラシや利用促進パンフレットの配布<br>・令和6年度末（R7.3）に導入した交通系ICカードのPRに努め、利用者利便性向上を図る<br>　田原市（旧渥美町）・市内高校生への通学定期券購入助成（令和元年9月～）を継続して実施する。助成額を3割から5割に増額した。（令和7年4月～）<br>・中学生・高校生対象の利用促進事業（パンフレット配布等）を実施する。<br>・期間限定の観光地までの路線延伸<br>・サイクルラックバス実証実験の実施<br>・支線沿いの地域住民等と意見交換<br>・東三河MaaSいこまいの推進によるデジタル環境の充実の取り組みを行う。 |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |

（別添1－2）

# 事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について

令和8年1月9日

| | |
|---|---|
| 協議会名： | 田原市地域公共交通会議 |

| | |
|---|---|
| 評価対象事業名： | 地域公共交通確保維持事業／地域間幹線系統 |

| | |
|---|---|
| 地域の交通の目指す姿<br>（事業実施の目的・必要性） | [将来像]だれもが安心して移動できるまち<br><br>[取組姿勢]協働で“つくり・守り・育てる”公共交通網<br><br>[全体目標]まちづくりの基盤となる公共交通の確立<br><br>【実現目標】<br>〇多様な移動ニーズに対応する公共交通の実現<br>⇒移動の安全性の向上、移動手段の選択肢拡大を目指す。<br>〇まちづくりを促進し、まちの魅力を高める公共交通の実現<br>⇒定住・交流人口の拡大、都市形成の推進・都市機能の維持向上、環境共生・福祉など地域課題の解消、観光・商業など地域活力の向上を目指す。<br>〇市民の幸福に貢献する公共交通の実現<br>⇒潤い豊かな暮らし方の実現を目指す。<br><br>【公共交通網】<br>〇「幹線乗合交通」を基軸とし、その範囲外を「コミュニティ乗合交通」「有償パーソナル交通」「政策交通」が順次補完（役割分担・連携）し、更にこれらを企業送迎・助け合い活動が補うことで市民等の移動を確保する。 |

別添４

## ＜地域公共交通計画の評価等結果の様式＞

田原市 地域公共交通計画の評価等結果（令和６年１０月～令和７年９月）

| 目標 | 目標を達成するための取組 | 調査方法 | 達成状況・分析 | 評価・次年度に向けた課題や取組 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|
| 市内公共交通利用者実績数を令和15年度までに148万人まで増加させる。 | 路線カルテの作成及び地域との協議<br>運転免許証自主返納支援事業の実施<br>・コミュニティバスの1年間無料乗車券の交付<br>・豊鉄バス元気パス引換券の交付<br>・たまぽカード1,000ポイントを交付<br>高校生バス通学用定期券購入助成の実施<br>・豊鉄バスの通学定期購入費に対して3割を助成<br>・中学生、高校生対象の利用促進事業（パンフレット配布等）を実施。<br>情報発信の継続<br>・交通ガイドブックの作成・配布<br>・多言語チラシ配架（３か国追加　計５か国語）<br>小学生以下を対象に、路線バスに親しんでもらうイベントを実施。<br>東三河MaaS「いこまい」を活用した情報発信<br>伊良湖支線の観光地への延伸<br>豊鉄バスサイクルラックバス実証実験の実施<br>東三河地区で連携した取組（東三河地域公共交通活性化協議会での取組）<br>・50円バスの実施<br>・なつやすみ公共交通フェスタ、ポスターコンクール作品募集の実施 | 沿線公共交通機関の有する乗降データを用いて計測 | ・149.2万人（令和6年4月～令和7年3月）<br>※第3次田原市地域公共交通戦略計画の目標に合わせて4月から翌年3月末までとしている。<br>・利用者数は前年度より増加している。<br>・伊良湖支線の路線・結節点再検討（買い物等利便性の高い目的地や観光地への延伸に向けた需要調査等）を実施。 | ・高校生通学バス定期券購入助成については、R7年度から市内高校通学者は助成割合を５割に拡充したことから、運転免許証自主返納事業とともに高校生通学バス定期券購入助成を継続実施。<br>・東三河地域と連携した広域的な利用促進を継続実施。<br>・現在の生活様式に対応した公共交通の在り方の検討を実施。<br>・引き続き、伊良湖支線等の路線バスの運行について運行事業者及び沿線地域と連携して利用者数の減少を止めるような取組を実施。<br>・交通系ＩＣカードの更なる普及と乗降データ等の分析による利便性の高いダイヤ編成や路線網の最適化について検討を実施。<br>・引き続き、期間限定の観光地までの路線延伸及びサイクルラックバス実証実験の実施。 | |
| 田原市ぐるりんバスの1便当たり利用者数を5.0人以上にする | ラッピング車両の導入周知活動の実施<br>・ぐるりんバスのラッピング、オリジナルペーパークラフトの作成及び配信 | ぐるりんバス乗降データを用いて計測 | ・市街地線：5.3人/便<br>・童浦線：9.2人/便<br>・サンテパルク線：4.4人/便<br>・市街地線と童浦線は、目標達成。目標未達成のサンテパルク線については前年度より減少傾向。 | ・東三河Maas「いこまい」を活用し、DX等の技術を活用した利用促進の継続<br>・QRコード決済（PayPay）の導入による利便性の向上（令和６年４月から導入済）<br>・引き続き関係機関と連携した利用促進策等を実施し、官民一体となった「守り育てる」公共交通利用促進事業を検討 | |
| 田原市ぐるりんミニバスの1便当たり利用者数を3.0人以上にする。 | 情報発信の継続<br>・交通ガイドブックの作成・配布<br>・多言語版バス乗り方情報作成<br>・多言語チラシ作成（３か国追加　計５か国語）<br>ぐるりんミニバス中山線のデマンド検討 | | ・表浜線：4.1人/便<br>・中山線：2.0人/便<br>・表浜線は、目標達成。中山線の利用者は減少傾向。 | ・路線カルテを用いて路線ごとの利用実態を検証し、地域と利用促進策を検討し実施<br>・バス停ごとに利用者の分析を行い、利用実態に合わせて、変更が必要な場合は随時ダイヤ・ルート等の変更を実施<br>・中山線のデマンド運行の実施 | |